

令和4年度 上田市立丸子中学校 自己評価シート

| 学校教育目標 | めざす子どもの姿(中期的目標) | |
|-----------------------------|---|---------------------|
| みずから学ぶ ともに創る たくましく生きる | ○主体的に学び続ける生徒 ○仲間や先生と共働できる生徒 ○壁を乗り越えるたくましい生徒 | |
| | 今年度の重点目標 | |
| | 1 | 生徒が学びの深まりを実感する授業づくり |
| | 2 | あいさつの行き交う楽しい学校生活の実現 |
| 3 | 生徒会活動(清掃・合唱・地域貢献)・総合学習を軸とした地域との関わり | |

| 総合評価 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 学校全般としては落ち着いており、今年度もコロナ禍での学校運営となったが、過去2年間の経験をふまえて適切に教育課程を遂行することができた。特に文化祭や、音楽会、各種宿泊行事の実施に当たっては保護者会等も行いながら理解を求め、実施することができた。生徒たちにとっても良い機会となった様子が伺える。日々の授業において、主体的対話的な学びの実現は道半ばであるが、生徒の学習への取り組みは落ち着いており、今後の授業改善をさらに進める必要がある。 | | | | | |
| 成果と課題 | A | B | C | D | 改善策・向上策 |
| のびのびと学習している。つまずいている生徒の支援が丁寧に行われている。講義式の授業が散見される。 | | ○ | | | ペアワークやグループワークをさらに積極的に取り入れ、対話的な学びを充実させるための授業改善を行う。 |
| 明るく挨拶できる生徒が多い。挨拶ができていると自覚している生徒が増えている。挨拶の返せない生徒がいる。 | | ○ | | | 生徒会や部活動と連携しながら、職員意識も啓発し、さらなる向上を図る。 |
| 活動の様子等を発信する活動を取り入れ、地域に広く広報することができた。地域との協働体制が脆弱。 | | ○ | | | 地域指導者を招聘する活動を充実させ、地域と連携して活動する内容を増やしていく。 |

| 領域 | 対象 | 評価項目 | 評価の観点 | |
|------|------|-----------|--|---|
| 学校教育 | 学習指導 | ねらいの提示 | 学習問題や課題を明示し、ねらいがわかりやすいか | |
| | | 対話的な活動の充実 | 授業の中に話し合いや協働の場面を取り入れているか | |
| | | 授業の見とどけ | ねらいの達成が振り返りや生徒の自己評価でできているか | |
| | | 家庭学習支援 | 宿題ST(スタートタイム)やノート指導による家庭学習の支援が行われているか | |
| | 指生徒 | あいさつ活動の充実 | 生徒会・生徒指導などが連携してあいさつ活動の充実に取り組んでいるか | |
| | | 個別支援の充実 | チームによる支援や外部機関との連携で個々の多様性を認める指導支援が行われているか | |
| | 教人育権 | 安心できる学校生活 | 人権教育を軸に、すべての教育活動に人権の視点を取り入れ生徒一人一人を大切にしているか | |
| | 活特別 | 生徒会活動の充実 | 生徒会活動の3本柱を意識した生徒主体の活動が計画的に行われているか | |
| | 学校運営 | 地域連携との | 地域と関わる学校教育活動 | 地域素材や人材を活用した学習や、ボランティアの積極的な利用が行われているか |
| | | | 適切な情報発信 | 学校だよりやHP等により、学校の取り組みや生徒の様子を伝えることができているか |

| 成果と課題 | A | B | C | D | 改善策・向上策 |
|---|---|---|---|---|--|
| ・学習問題が明確にされており、生徒が授業に取り組みやすい授業になっている。特に3年生で授業がわかりやすいと感じている生徒が増えている。 ・生徒同士が関わって学び合う対話的な学習活動の場数が少ない。 ・1学年において学習に困難さを感じている生徒が多い。 | | ○ | | | ・授業でさらにペア学習やグループ学習を取り入れる工夫・改善を行い、対話的な学習による理解の深まりを図る。 ・教えるべきところと考えるべきところのめりはりをつけ、生徒が円滑しやすい工夫する。 ・つまずきやすい生徒への支援を支援員や丁寧かつ適切に行う。 |
| ・あいさつ活動は風紀応援委員会による昇降口での活動を足がかりに全校への意識が高まっている。 ・友人関係で悩む生徒や、漠然と不安を抱える生徒に対してよりスピード感を持って対応することが必要。 | ○ | | | | ・あいさつ活動をさらに広げる。教師の意識も高め、挨拶励行に全校で取り組む。 ・日頃から生徒の様子を丁寧に観察し、困り感のある生徒に、支援員や相談員やSC等とチームで対応する。 |
| ・人権同和教育旬間において講師を招聘して授業を行い、職員も各種研修会で個々に研鑽を積むことができた。 | | ○ | | | 多様性の時代に鑑み、今後は様々な人権の学習を推進していく。 |
| ・清掃、合唱、地域貢献すべてにおいて多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。一部苦手意識のある生徒もいる。 | | ○ | | | 今後のコロナの状況を注視しながら、訪問活動や校外活動などを可能な限り実施していく。 |
| ・各学年総合的な学習の時間で地域の方々とのふれあいながら活動したり、知識を伝えていただいたりした。 | | ○ | | | ・ボランティアの利活用が停滞しているので各種機関と連携しながら積極的に導入していきたい。 |
| ・おたよりの発行やHP更新など適切に行い、学校関係者の方々に学校の様子をお知らせすることができた。 | ○ | | | | ・配布物の内容によっては保護者連絡メールも活用して確実に保護者に届くような工夫をしていきたい。 |

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった